

府政の中での位置づけ

【将来ビジョン大阪】
・水とみどり豊かな新エネルギー都市大阪
⇒みどりの風を感じる大都市・大阪

【成長戦略】
・都市の再生
⇒地域の既存資産を活かした都市づくり
⇒みどりを活かした都市づくり
⇒農空間の多面的な機能を活かした都市づくり・都市農業の再生

災害に強いまちづくりに貢献

防災などの多面的機能評価額
・森林 1,658億円
・農空間 960億円

適切な保全が必要

背景

■みどりで都市の風格を高める

⇒人や企業をひきつけ、投資を呼び込むみどりづくり



【現状データ】

主要都市の緑被率比較

大阪市	9%
大阪府	14%
東京23区	18%
*パリ	22%
*ニューヨーク	24%
*ソウル	38%
*ウィーン	62%

注) *は、関西大学調べ
都心半径10km圏域におけるみどりの割合で参考値

■みどりで都市を冷ます

⇒ヒートアイランド現象の緩和により、日本一の暑さを解消



【現状データ】

H22年8月
平均気温
30.5℃

(参考)
那覇28.9度



■みどりで地域力を高める

⇒地域でみどりで結びつける



【現状データ】

Qネット(H21.7)
・「まちなかに緑が豊かを感じる」...1%

社長パル(H22.10)
・「企業活動に緑が有効」...93%

・「まわりの緑が豊かになれば、自分の敷地も緑を増やそうと思う」...70%

取り組みの全体像

みどりの大阪推進計画【2009年12月策定】

- 計画期間 2025年(H37年)まで
- 緑地の確保目標 「緑地」の府域面積に対する割合を約4割以上確保
- 緑化の目標 (市街化区域) 緑被率20%(現況(H14:14%)の1.5倍)
- 指標 大阪府域にみどりがあると感じる府民の割合 <<約5割⇒約8割>> 最近みどりに触れた府民の割合 <<約4割⇒約8割>>

4つの基本戦略

基本戦略-1 みどり豊かな自然環境の保全・再生

周辺山系の保全・再生



農空間の保全・活用



基本戦略-2 みどりの風を感じるネットワークの形成

道路を主軸としたネットワーク



河川等を主軸としたネットワーク



基本戦略-3 街の中に多様なみどりを創出

府有施設の緑化推進等



民有地のみどりの保全・創出



基本戦略-4 みどりの行動の促進

みどりづくりを通じた地域力再生



府民、NPO、企業等との連携推進



H23の目標

基本戦略-4「みどりの行動の促進」を重点展開

様々なフィールドで、多様なプレイヤーの活動が必要

取組の方向

全体目標 みどり行動に参加した府民数を拡大
約161,000人、約270団体 ⇒ 約180,000人、約340団体

『(仮称)みどりと風の重点取組月間』の創設

【周辺山系】

- ・地域ぐるみによる森づくりの推進
- ・災害に強い森づくり
- ・木材の供給体制づくり
- ・“森を遊ぶ”取り組みの推進
- ・アドプトフォレストや生駒山系花屏風構想への参加企業の拡大



生駒山系花屏風構想
間伐による森林保全

府民・地域

森林所有者

企業・NPO

農家

府民・地域

市町村・JA

【都市の緑】

- ・みどりの風促進区域における地域の緑化プランの策定
- ・みどりの風促進区域の協力企業の拡大
- ・校庭の芝生化の推進
- ・共生の森づくりの推進



みどりの風促進区域
校庭の芝生化

【農空間】

- ・農空間活動の新たな担い手の確保 (企業、準農家など)
- ・環農総研と連携した大阪産(もん)のブランドイメージアップ
- ・農空間での防災活動を通じた府民意識の向上



棚田の保全・活用



企業による農業参入 (水耕栽培施設)

【背景】

- 担い手の著しい減少 →農空間保全のみならず、食料生産力も低下
- 企業や農外からの新規参入の強化やブランド化による強い農業づくりを通じ、農空間の保全にも寄与

市町村との役割分担の考え方

大阪府

- ①府域の骨格となるみどりの軸と拠点づくり(大規模公園、促進区域など)
- ②大都市の周辺の貴重なみどり空間の保全(周辺山系、農空間、大阪湾など)

府・市町村 共管・連携

- ①みどりづくりを通じた地域力の再生(校庭の芝生化など)
- ②シンボリックなみどりづくり(街かどシンボルツリー事業、街なみストリート事業など)
- ③府全体としてみどりづくり(条例、府有施設・都市基盤施設の緑化推進など)

市町村

- ①身近なみどりづくり(近隣公園や市町村道の緑化推進、生垣助成など)
- ②地域の美化と一体となったみどりづくり(花いっぱい運動など)
- ③まちづくりの取組み主体としてのみどりづくり(都市計画対応など)